

子どもたちの輝く未来のために！

平成19年1月19日発行

教育センターニュース

ミネルバ
102号佐賀県教育センター <http://www.saga-ed.jp/>
〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404特集記事
副所長の言葉

教育センターが進める研究

特色ある学校の紹介

教育論文・マルチメディア教材入賞者発表



「まずは情報に触れることです」

副所長 吉田 功



【押し寄せる メールの数に 気も滅入る】この句は、私がメールを使い始めたころ、操作の不慣れとパソコンの指紋認証の不具合も手伝い、迷惑メールの処理に手間取ったり、欲しい情報がなかなか整理できなかったりしたときに創った川柳です。今でも迷惑メールにはいささか閉口しますが、それ以上にメールの利便性を実感しています。

さて、情報収集という点で考えると、インターネットを利用することで、世界中のあらゆる情報を、いつでも、どこでも、だれでも入手し、享受することができます。こうした大量の情報があふれる中では、情報を活用していく力と共に情報の有益性を見極める判断力が付けることが必要です。発信される情報には、有益なものばかりでなく有害なものも少なくありません。まずは情報を入手する側が、その善し悪しを判断する力を付けることが何より求められていると思います。

一方、教育センターからは、多くの研究情報を発信しています。発信する側としては、役に立つ情報を分かりやすく早く届けることを念頭に仕事をしています。その甲斐もあって教育センターのホームページには、今年度4月からの平均で毎月48万1,000件を超えるアクセスを頂いています。特に、「全国津々浦々！自己研修資料」には、全国のサイトで公開されている授業に役立つ教材・指導案・研究物を紹介していますが、他県の教育センターでも好評のようです。しかし、県内の先生方の中には、まだまだ教育センターからの情報について、ご存知でない方も多いのではないかと思います。

If information is currency of democracy, then libraries are its banks.

「情報が民主主義の通貨とするならば、図書館はその銀行である。」アメリカのウェンデル・フォード上院議員の言葉だそうですが、教育センターも地域の教育情報の拠点として、役割を果たしていきたいと考えています。教育センターのホームページにも気軽にアクセスし、まずは情報に触れてください。



教育センターが進める研究



教育センターでは、研究調査事業として、佐賀県の教育課題を解決するための「プロジェクト研究」と、各教科・領域の「個別実践研究」という2つの研究を進めています。今回は、現在まとめている研究の内容について紹介します。

■プロジェクト研究 研究成果は、冊子等の配布とともにすべて教育センターHP上でも発信します。

生活・学習習慣の育成

小学校低学年における生活習慣や学習習慣を身に付けさせるための指導のポイントについてまとめています。また、「聞く・話す」「整理整頓」「友人関係・コミュニケーション」など、それぞれの指導項目について、実践例や具体的な指導のアイデアを紹介します。指導する際の参考資料としてガイドブックを作成し、各学校に配布します。

集団への適応

小・中学校で集団不適応を起こしている児童生徒に対する支援の在り方について研究しています。1年次に行ったアンケート調査及びチェックリスト作成を受けて、今年度は、「個別アセスメントシート」を作成しました。それを活用したよりよい適応を促すための支援の在り方を探っています。研究成果は、リーフレットとして各学校に配布します。

道徳を通して培う情報モラル

心豊かなコミュニケーション力をはぐくむ情報モラル教育の在り方について研究を進めてきました。4月には、道徳の時間に子どもたちの情報モラルを向上させるための手立てや具体的な授業実践例を、研究冊子にまとめて配布します。また、開発した教材や指導案、ワークシート等を教育センターHP上からダウンロードできるようにします。

教師のための安全な理科実験・観察

教科書の中で取り扱われている実験・観察を中心に、教材選定の仕方や実験・観察指導のこつ、安全上注意すべき点などを、各学年ごとにガイドブックにまとめます。今年度は小学校編を、来年度は中学校編を作成します。

「食べる力」をはぐくむ食育授業

小・中・高等学校における児童生徒の発達段階と食生活の課題を踏まえ、学級活動（ホームルーム活動）や道徳、総合的な学習の時間に取り組める食の授業について研究しています。指導計画や指導題材、指導例などを提案します。

読む力を育てる国語科指導

目標をより鮮明にした言語活動の工夫を通して、「読むこと」の力を育てる手立てを探ります。学習者の実態と教材の特性を踏まえた効果的な言語活動を取り入れた実践を、小・中・高のそれぞれの校種で提案します。

■個別実践研究 研究成果は、すべて教育センターHP上で発信します。

小学校図画工作科 身近な素材を扱う授業を通して、造形表現を楽しむ子どもが育つにはどのような手立てが有効か検討しました。素材のよさを発見できるようにするための授業の導入、展開、終末の鑑賞等についてまとめています。

中学校美術科 生徒が自分の成長を物語としてとらえ、絵巻物として表現しました。場面と場面を関連付け、円滑に「つなぐ」ための画面構成の工夫について紹介します。

中学校英語科 自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動について、選択授業において研究を進めています。考えや気持ちをつながりよく書き表し、伝え合い、相手の考えを把握した上で自分の考えを再度書き表す活動に取り組みました。

高等学校英語科 生徒の英語表現力（書く力）の基礎をはぐくむための、音読活動とストーリー・リプロダクション活動を中心とした授業の展開例を紹介します。

高等学校工業 主な金属材料とその性質について、様々なサンプル画像やアニメーション効果を取り入れたマルチメディア教材を開発しています。

教育相談 教師が日常的に行えるブリーフセラピーの考え方を活用した学校内カウンセリングの在り方を探ります。カウンセリングを実施する際の具体的な取り組み方や、子どもの状態に合った支援をするための留意点などを示します。

太良町立大浦小学校

「自分の生活を見つめ、より健康的な生活を送ろうとする児童の育成」

大浦小学校は、佐賀県の南の端に位置する学校で、14学級、児童数358人の中規模校である。

平成17・18年度の2年間、文部科学省・太良町教育委員会の委嘱を受け、「生活習慣病予防等をめざした歯・口の健康づくり調査研究事業」に取り組んできた。昨年度、まずは、歯みがきタイムを定着させることからスタートした。児童が進んで歯みがきに取り組むために、歯・口の健康づくり指導の年間計画を作成し、各学年、年間3~4時間、学級活動を中心として、歯みがきの仕方、おやつのとり方、かむことの大切さなどを指導した。また、朝の時間を利用して虫歯の原因について話したり、歯によいおやつについて考えさせたりと継続的な指導を重ねた。さらに、児童が主体的に活動することを目的とした「わっ歯っは集会」（写真参照）、講師を招へいしてブラッシングの指導を受けたり歯の病気について話を聞いたりする「わっ歯っは講座」なども実施した。そのような継続的な実践の結果、歯を大事にするという意識が高まり、学校を離れても、食後すぐに歯みがきをする光景が見られるようになった。保護者からも「ていねいに歯をみがくようになった」という声が多く寄せられ、実践化につながっていることがうかがえる。



これらの取り組みの一端は、11月9日（木）の研究発表会において公開した。今後も、自他の健康に关心をもち、より健康的な生活を送るために自ら考え、実践しようとする児童の育成を目標として、継続的に取り組んでいきたいと考えている。

特色ある学校の紹介

基山町立基山中学校

「学力向上を目指した指導法の研究」

基山中学校は、筑紫山地に囲まれた田園都市に立地し、17学級、生徒数632人の大規模校である。

校内研究では「学力向上を目指した指導法の研究」を研究テーマに、全教科で研究授業を行い、全職員で参観し（写真参照）、授業研究会を開くなど、教科間の枠を越えて授業改善に取り組んでいる。今年度は、「生徒の学習意欲を高めるために、分かる授業の実践を行う」「学習環境を整えて、学習習慣の定着を目指す」ことを研究目標に設定し、生徒の学習意欲を高めるために、分かる授業の実践を行っている。研究組織の授業実践部会では、指導案の検討や、授業の評価表であるループリックについても協議を行い、作成した。ループリックの評価項目の柱は、教科特有のものにならないよう、研究の副題である「学習意欲を高める手立て」の項目を必ず設定している。授業研究会ではそのループリックの観点の評定により、協議を行っている。また、指導案には評価の視点が記載してあり、授業の各場面において、その手立てが生徒の意欲を高めるものになっているか、ということに協議の視点は一致している。



どの授業においても、学習課題に真剣に取り組む生徒の姿が多く見られるようになり、学習意欲の高まりを感じている。生徒に充実感を味わわせることができ、学習面や生活面での意欲向上につながる。3年間の在学中に生徒をじっくり育てていきたい。そのためにも学校を開放して、生徒の様子を保護者や地域の方々に見ていただきたい。



教育論文・マルチメディア教材入賞者発表

今年度の教育論文・マルチメディア教材の募集には、35編の力作が寄せられました。

審査の結果、次のように入賞校及び入賞者が決定しました。入賞校・入賞者のお名前と研究主題をお知らせします。入賞者のみなさん、おめでとうございます。

教育論文部門
(校内研究の部)

優良賞 鹿島市立古枝小学校 校長 永池 守 代表 教諭 平井 敏博

研究主題 子どもたちが、生きる意味や価値を見いだすいのちの教育(性教育)

(個人研究の部)

優秀賞 嬉野市立嬉野小学校 教諭 森 真理子、外尾 智子、池田 直人、中原 奈美、福田 哲也

研究主題 一人一人に必要な基礎基本を伸ばす作文指導

- 習熟度別コース設定を取り入れた指導を通して -

優秀賞 唐津市立切木中学校 教諭 野崎 征久

研究主題 主体的に探究する力を高め、確かな学力を育てる理科学習指導法の研究
- 発展的な学習の位置付けを通して -

優良賞 白石町立有明西小学校 教諭 佐久間 亮

研究主題 主体的に活動し、気付きを深める生活科の学習

- 魅力ある単元づくりと、支援の在り方を通して -

優良賞 嬉野市立吉田小学校 教諭 熊本 由美子

研究主題 自分の力を発揮し、共に高め合う子どもの育成

- キャリア教育の実践を通して -

奨励賞 玄海町立値賀中学校 事務長 金林 克哉

研究主題 玄海町の学校事務共同実施について

マルチメディア教材の部

優秀賞 神埼市立千代田西部小学校 教諭 小西 徹

作品名 練習ランド

優良賞 伊万里市立牧島小学校 教諭 力久 輝史

作品名 英語遊びクリックゲーム集

Congratulations

長期研修生はそれぞれの研究内容を、平成19年2月15日(木)の教育実践交流会でポスター発表する予定です。

長期研修生の研究課題一覧

研究テーマ	研究課題	所属校	氏名	研究教科・領域等	研究テーマ	研究課題	所属校	氏名	研究教科・領域等
A 基礎学力の定着	読解力を高める国語科学習指導の在り方	鳥栖北小学校	ながお 長尾 真司	国語	支援個別指導の在り方1 個の成長を促す教育的支援の在り方1	伊岐佐小学校 白石小学校	おがた 緒方 まさえ 理恵	教育相談	
		久間小学校	わたなべ 渡邊 陽子	国語			はらだ 原田 智子	特別支援教育	
		昭栄中学校	はらぐち 原口 真	国語		北 部 育護学校 伊万里養護学校	ささき よしまさ 貴 賢	領域・教科を合わせた指導	
	思考力、表現力を高める学習指導の在り方	北川副小学校	なかやま 中山 孝	社会	個の成長を促す教育的支援の在り方2 個の成長を促す教育的支援の在り方2		もちなが 持永 加代子	自立活動	
		若基小学校	まつお 松尾 ひろし 天	理科	巨勢小学校 桜岡小学校 朝日小学校 佐賀工業高等学校	ごたんた 五反田 康子	総合的な学習の時間(英語活動)		
		有明南小学校	いのうえ 井上 昌子	算数		にしむら 西村 清美	総合的な学習の時間		
		大町中学校	いしやま 石山 守	理科		うら 浦貴仁	社会		
		城北中学校	たかしま 高島 聰子	外国語(英語)		SDコンピュータ法タの改活用 学習意欲を高め、理解を深めるコンピュータ・インターネット活用の在り方		いはら 井原 博志	工業(電気)
		思斎中学校	やすおか 安岡 公美	数学					
		東脊振中学校	こが 古賀 美加	数学					
B 異かな人間性の育成	伝え合う力をはぐくむ道徳指導の在り方	上峰小学校	のうどみ 納富 義博	道徳	編集後記	ここに紹介した教育論文・マルチメディア教材の優秀賞の作品及び長期研修生の研究内容は、2月15日(木)の教育実践交流会で発表されます。その他、所員による多数の分科会も計画しておりますので、多くの先生方に来ていただければと思っています。			
		浜玉中学校	あきやま 秋山 いづみ	道徳		詳しい案内は、教育センターHPからどうぞ！			
	伝え合う力をはぐくむ総合的な学習の時間の在り方	七浦小学校	なかいね 高稲 久美子	総合的な学習の時間(英語活動)					
		大浦中学校	こが 古賀 恭子	総合的な学習の時間					